

様式1

令和3年度 学校評価表

学校教育目標	自他を尊重し、主体的に学び続ける子どもの育成		
--------	------------------------	--	--

a ミッション	組織的な学校経営と小中連携による主体性・表現力の育成	a ビジョン	(1) 自他を尊重し、これからの社会をよりよく生きるための能力を身に付けさせる。 (2) 保護者・地域から信頼される学校になる。 (3) 教職員の総力を挙げた組織的で機能的な教育活動の推進を図る。
---------	----------------------------	--------	--

尾道市立国北小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画								
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明			k 二次評価			l コメント	m 改善案				
				イ	ロ	ハ														
主体的に学び続ける児童を育てる。  自他を尊重し、よりよいものを求め表現する児童を育てる。	課題意識を持ち、自ら課題を解決しようと粘り強く取り組もうとする姿。  自分たちで、学校や社会を充実(楽しく)させるために行動する姿。	・基礎となる学力を高めるために「きめる」「表す」「見つめ直す」授業づくりを進める。  ・学習や経験を活かす行事や特別活動等において児童が課題意識を持ち、自ら考え、行動できるような場の設定、指導をする。	・国語・算数の単元末テストにおける知識・技能が定着している。  ・体育的行事(1学期:運動会、2学期:持久走大会、3学期:なわとび大会)や学習発表会に向けて、一人一人が努力目標を持ち達成している。	80%	国語 87 算数 83.8	国語 88.7 算数 89.9	110 112	A	・学校全体で目標値を上回ることができた。 ・学年別、教科別に見ても、全学年で目標値を上回ることができた。 ・思考力・表現力の土台となる「知識・技能」の定着について、毎月調査を行い、課題のある児童に対して個別の支援を行ったことが効果につながった。 ・毎月、基礎基本の定着状況、課題克服のための取組について交流してきたことにより、指導者側の意識が高まった。 ・標準学力調査(12月実施)の結果においても、学校全体で国語科、算数科ともに平均を上回ることができた。  ・2学期は、運動会を実施することができなかったが、児童会中心のスマイル運動会、学習発表会、持久走大会を実施することができた。 ・スマイル運動会では、内容の制限や工夫を行ったが、6年生を中心に、主体的に動く姿、楽しそうに運動する姿が見られた。 ・学習発表会では、普段の学習の成果を発表する機会となった。特に、今年度は生活科、総合的な学習の時間の内容を充実に向けて取組を進めたので、これらの学習の成果を子供達が自信をもって発表できたことがよかった。 ・持久走大会では、事前の目標、そのための取組、ふり取りと充実させてきた。体育委員会からの取組もあり、課題意識をもってがんばる姿が見られた。	○	○	○	・3年生のオンライン授業を見せてもらったが、子供達が自分達の地域の様子を上手に伝えていたので感心した。(表現力に成果があらわれた。)  ・目標を上回ることができた中でも、個々の学習支援をきめ細かく行ってもらいたい。	・「知識・技能」の結果、学力調査の結果は、取組の充実により、一定の成果が出ている。しかし、「思考力・表現力」「活用性」等については十分でない。学力調査等を活用し、児童の実態を把握し、細かい分析をしていく必要がある。細かい分析ができれば、それに対する取組や指導も具体的なものになる。						
				90%	80%	97%	107	A							・各学年での取組、3つの宝委員会の活動等により、学校全体の「3つの宝」の意識が高まっている。 ・あいさつは、できるようにできているが、自分からできているかという点では課題がある。 ・はきものそろえについては、低学年が使うトイレのはきものがそろわない。これは、廊下を走ることと運動していると考えられ、けがをさせないためにも指導を徹底していく必要がある。	○	○	○	・体力テストの結果の「ボール投げ」が話題になった。「ボール投げ」に必要な身体の動きは何かを考えていく必要がある。また、家庭でできる「ボール投げ」向上の運動がないか考えてみることも大事ではないか。 ・いろいろな行事を通して、目標を持ち、努力をすることで、より達成感が味わえる。 ・子供達は、コロナ禍の生活に慣れ、がんばっている。早くコロナが収束し、以前の学校生活が送れるようになってほしい。	・各行事の充実をさらに図っていくために、「主体性」と「表現力」をもっと意識する必要がある。各都で「主体性」と「表現力」の具体的な目標を設定し、取組を行う。事後も、それらについてどうだったかを振り返るというサイクルで進めていく必要がある。
				80%	68.4%	68.5%	85.6	B												
80%	83.3%	85.6%	107	B	【「学びの変革」アンケート】 ⑧授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表の工夫をしています。  ⑨授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	○	○	○	・より細かく個々を把握した指導をしていただきたい。	・「主体性」と「表現力」に係り、めざす児童後を具体的に設定する。 ・授業において、自分の考えをもつために何が問題なのかを整理して把握させること、それに対する課題意識(活動であれば目的意識)をもつことが重要となる。どの教科においても共通して必要なことなので、意識して授業を進めていく。 ・特に授業において、どんな説明をさせたのか、どんな説明を書かせたのかなど、なしっかりとって授業を行い、できていない場合は、できるように指導を続ける必要がある。 ・ペアやグループでの話し合いの場面を設定する際には、何のために話し合いをするのか、何を解決するために話し合うのかを明確にもつ必要がある。										

【自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成)  
C: 60≦(もう少し)<80

B: 80≦(ほぼ達成)<100  
D: (できていない)<60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。